

県立大学 小浜・かつみキャンパスを 育てる会

第32号 | 令和7年6月



ごあいさつ

会長 杉本 和範

地域の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は本会の諸事業に格別のご理解と、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会は、小浜キャンパスの開学に先立ち結成され、以来、地域から親しまれる大学となるよう各種事業を行って参りました。

令和4年度には、水産増養殖を専門的に学べる「先端増養殖科学科」が海洋生物資源学部に新たに設置され、令和5年10月には「先端増養殖科学科」のメインキャンパスとして、新たに「かつみキャンパス」が供用開始されました。

今後、嶺南を拠点とした養殖技術の発展や、将来の地場産業を担う人材の育成につながるものと大きな期待を寄せております。

育てる会としましても、小浜キャンパスだけでなく、かつみキャンパスも一体となって地域に開かれた大学・地域住民に親しまれる大学となるよう後押しするため、本会の名称を「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」に改めております。

県立大学の大きな転機を十分に活かすため、これからも活動を支援するとともに、地域との交流を促進し、大学と地域が共に発展できるよう、各種事業を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ごあいさつ

福井県立大学海洋生物資源学部長 水田 尚志

「小浜・かつみキャンパスを育てる会」の皆さまには、定置網漁業体験や魚加工品製造体験、さらには学生や教員の研究フィールドの提供など、本学海洋生物資源学部における教育および研究に対して多大なるご理解とご協力・ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度は先端増養殖科学科が開設されて4年目となり、全ての学年が揃いました。小浜、かつみ両キャンパスにおいて、大学院生および教員も含め、約300名が素晴らしい自然環境と充実した設備の下、教育・研究に打ち込んでおります。昨年度に引き続き、今年度も地域の皆様との交流ができることを楽しみにしております。

公立である福井県立大学海洋生物資源学部の教員一同、常に地域や社会への貢献を意識しながら、教育および研究活動の充実を図りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

育てる会では、地域の方々に県立大学をより身近に感じていただくために、また、学生の皆さんには、若狭地域により愛着を持っていただくために、様々な事業を実施しています。

また、育てる会は、かつみキャンパスが設立されたことを機に、昨年6月から「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」に名称を改め、小浜とかつみ一体となって取り組んでおります。

「令和6年度 総会・地域講演会」を開催しました！

＜令和6年6月＞

令和6年6月17日（月）に県立大学小浜キャンパスで令和6年度の総会・地域講演会を開催しました。1年間の事業方針や計画が承認された後、県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科の佐藤 秀一教授に『持続可能な養魚飼料の開発』と題してご講演いただきました。



教育GP「漁業体験」が実施されました！

＜令和6年9月＞

本会会員の宇久定置網有限会社の浦谷俊晴 様、県立大学の教員のご協力のもと、小浜市宇久において、定置網漁の体験が行われました。当日は天候にも恵まれ、学生の皆さんが、地域の一次産業の現場を肌で感じるいい経験となりました。育てる会からも企画実施への補助金を支援しました。



浦谷 様のお話を伺う学生

令和6年度 県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会 事業報告

5月	9日	令和6年度 計画会議			
6月	17日	令和6年度 総会		22日	出張キャンパス（本郷小学校（おい町）） ・海洋生物資源学科 松川 雅仁 教授 「食塩と食」
	17日	地域講演会 ・先端増養殖科学科 佐藤 秀一 教授 「持続可能な養魚飼料の開発」		31日	出張キャンパス（口名田小学校） ・海洋生物資源学科 小路 淳 准教授 「森と川と海のつながりを実感しよう！」
	24日	令和6年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第1回幹事会			出張キャンパス（西津小学校） ・海洋生物資源学専攻 杉尾 唯一 氏（修士課程2年） 「森と川と海のつながりを実感しよう！」
	25日	会報 第31号発行（市内全戸配布）			
8月	31日	地域交流事業（Sea to See 事業）※台風のため中止			
9月	12日	出張キャンパス（雲浜小学校） ・海洋生物資源学専攻 杉尾 唯一 氏（修士課程2年） 「森と川と海のつながりを実感しよう！」		11日	地域交流事業（施設見学会） ・海洋生物資源学部 先端増養殖科学科 かつみキャンパス見学 地域交流事業（研修会） ・海洋生物資源学専攻 海洋環境動態学研究室 山田 拓海 氏（修士課程1年） 「福井県沿岸の流れの変化と観測体制の強化」 ・先端増養殖科学科 眞壁 喜一郎 氏（学部2年） 「小浜市水族館計画 ～1人の学生から広がる夢の連鎖～」
	13日	令和6年度 若狭地域産学官水産連絡会議 総会			
	25日	教育GPへの支援（宇久漁港定置網漁業体験）		17日	令和6年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第2回幹事会
10月	5日、6日	大学祭（白樺祭）への支援 （広報・模擬店買い物券発行・補助金等）		通年	学生に対する各種情報の提供
	10日	出張キャンパス（西津小学校） ・先端増養殖科学科 富永 修 教授 「海の世界について」			

大学祭「第32回 白樺祭」が開催されました！ ＜令和6年10月＞

令和6年10月5日（土）、6日（日）に県立大学小浜キャンパス（学園町）で第32回白樺祭が開催されました。令和6年度は、『KAIEEN（かいえん）』をテーマに様々なイベントが開催され、育てる会からも企画実施への補助金を支援しました。



「施設見学会・研修会」を開催しました！ ＜令和7年3月＞

令和7年3月11日（火）に、県立大学かつみキャンパスの施設見学会を開催しました。当日は、学生の案内のもと、飼育棟や学科棟など見学しました。見学後は、博士前期課程生物資源学研究科海洋生物資源学専攻1年山田拓海様、先端増養殖科学科2年まかべきいちろう様から研究成果の発表をしていただきました。



出張キャンパスのご案内



昨年の出張キャンパスの様子

詳しくは、

県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会事務局（小浜市未来創造課内） TEL 0770-64-6148（直通）

までお問い合わせください。

育てる会では、小中学生等の皆様に海をはじめとする自然に対する興味を深めていただくため、また、小浜キャンパス、かつみキャンパスを身近に感じていただくために、小浜キャンパス、かつみキャンパスの教員や学生による出前講座「出張キャンパス」を実施しています。

私たちの生活に身近な話題をわかりやすく、楽しく教えていただきます。

ぜひ、総合学習の時間等でご活用ください。きっと新たな発見がたくさんあります！

福井県立大学30周年研究プロジェクト 「輸入品目を福井産へ」研究成果

海洋生物資源学部では、福井県の水産増養殖の持続的発展に貢献することを目指し、福井県産の次世代型養殖技術の開発に取り組んでいます。これまで約3年にわたり進めてきた3つの研究成果について、昨年度末に発表しました。

マサバ用飼料におけるミズアブの利用性に関する研究

先端増養殖科学科 教授 佐藤秀一
海洋生物資源学部 准教授 細井公富

現在、水産養殖業は世界的に著しい発展を遂げており、養魚飼料の原料である魚粉や魚油の供給が逼迫し、価格が高騰しています。そこで、輸入魚粉・魚油に代わるものとして、昆虫由来の原料が注目を集めています。昆虫の中では、その生産量や安定供給度からアメリカミズアブが最も適していると思われます。

福井県嶺南地域では、酒粕を飼料に配合したものでマサバを飼育したよっぱらいサバというブランド魚が注目を集めています。そこで、魚粉と魚油の代替候補としてアメリカミズアブ由来のミールとオイルの利用性をマサバにおいて検討しました。

まず、魚粉を25%、50% ミズアブミールで代替した飼料を作製し、マサバを飼育したところ、50% 代替した飼料の成績が良い結果が得られました。次に、75% まで代替した飼料を給餌するとやや劣る傾向がみられました。また、魚油をミズアブオイルで30%、60% 代替した飼料で飼育したところ、60% でも魚油飼料と同等成績が得られました。

以上のことより、アメリカミズアブ由来の飼料原料はマサバにとって有効な飼料原料であることが示唆されました。



マサバ

計画生産とコスト削減を両立させる給餌システムの開発

先端増養殖科学科 特命教授 富永 修

海面魚類養殖では、過剰な給餌によって多量の残餌が発生すると、生産コストの増大だけでなく、養殖場周辺海域への有機物の負荷や栄養塩の流出による自家汚染を招くことになります。

一方、給餌量が不十分であると、計画的な生産ができなくなることに加えて、魚のサイズにばらつきが生じる原因になります。そのため、養殖生産では、食べ残しの餌を最小化して、ねらい通りに成長させる給餌方法を確立することが求められています。

私たちは、残餌を連続的に回収して計数するシステムとクラウドで給餌条件を管理できる自動給餌器を組み合わせ、摂餌活性の時間変化を正確に計測するシステムを開発しました。その結果、自動給餌機の給餌条件を組み合わせることで、摂餌量を制御できることがわかりました。

これらの成果により、自動給餌機のプログラミングだけで給餌方法を最適化することが可能になります。今後、実用化に向けて研究を進めたいと考えています。



マサバの摂餌試験を実施した閉鎖循環水槽

小浜湾発の新ブランドガキの創出

先端増養殖科学科 教授 浜口昌巳

小浜湾で養殖されるマガキは「若狭かき」として有名ですが、他県から購入した種苗が使われていましたので、小浜湾で天然採苗に挑戦しました。その結果、天然採苗に成功し、それを養殖したところ成長が早く、国内でも生産が難しいとされる「一年かき」が出来ました。

そこで、小浜湾の天然種苗で生産した一年かきを「若狭こはるかき」と命名しました。

次に、小浜湾は水深が浅いために水温が上がり易く、夏場の養殖カキのへい死が問題となっていました。そこで、高水温に強い三倍体マガキの試験養殖を行ったところ、通常の種苗の生残率が5-6割であったのに対し、三倍体マガキは9割以上となりました。こちらは「若狭うららかき」として現在、小浜市、小浜市漁協、漁業者さん達と連携して量産化を進めています。

昨年度、小浜産のマガキを親として本学科で三倍体マガキを作出しました。その結果二つの新ブランドガキ“こはる”、“うらら”ともに純粋小浜湾産とすることが出来ました。



ふたつの純粋小浜湾産ブランドガキを小浜市長にお渡ししました

福井県立大学海洋生物資源学部の概要

沿革

平成 4 年	4 月	福井県立大学 開学
平成 5 年	4 月	福井県立大学小浜キャンパス 開設
平成 8 年	4 月	福井県立大学大学院博士前期課程開設
平成10 年	4 月	福井県立大学大学院博士後期課程開設
平成15 年	3 月	海洋生物資源臨海研究センター開設（堅海）
平成19 年	4 月	公立大学法人化－「公立大学法人福井県立大学」に移行
平成21 年	4 月	海洋生物資源学部 開設
平成24 年	9 月	若狭高校と連携協定締結
平成25 年10 月		小浜キャンパス開設20 周年記念式
平成29 年	3 月	県立大学と小浜市において「包括的連携に関する協定」の締結
令和 4 年	4 月	福井県立大学かつみキャンパス開設 海洋生物資源学部に「先端増養殖科学科」開設



学生状況

（令和7 年4 月現在）

		学 生 数		
海洋生物資源学部		海洋生物資源学科1 年（永平寺キャンパス）	54 名	（男： 41 名 女：13 名）
		先端増養殖科学科1 年（永平寺キャンパス）	33 名	（男： 26 名 女： 7 名）
		海洋生物資源学科2～4 年（小浜キャンパス）	165 名	（男：116 名 女：49 名）
		先端増養殖科学科2～4 年（かつみキャンパス）	91 名	（男： 73 名 女：18 名）
大学院	博士前期課程	海洋生物資源学専攻（小浜・かつみキャンパス）	23 名	（男： 18 名 女： 5 名）
	博士後期課程	海洋生物資源学専攻（小浜・かつみキャンパス）	5 名	（男： 3 名 女： 2 名）
合 計			371 名	（男：277 名 女：94 名）

就職・進学状況（令和7 年3 月末現在）

内 定 状 況 … 全体：100.0％ 男：100.0％ 女：100.0％

主な県内就職先 … 福井中央魚市(株)、(株)若廣、越前松島水族館、福井県庁、セーレン(株)、清川メッキ工業(株)

主 な 進 学 先 … 福井県立大学大学院、東京海洋大学大学院、筑波大学大学院

教職員状況（令和7 年4 月現在）

教員

	教授	准教授	助教
海洋生物資源学科	10	6	1
先端増養殖科学科	7	5	
合 計	17	11	1

事務職員

	事務	司書	専門員・事務補助等
小浜キャンパス	4	1	8
かつみキャンパス	2		4
合 計	6	1	12

学生 インタビュー



海友会会長

氏 名：福嶋 航英
学 科：海洋生物資源学科
学 年：3年
出身地：福井県おおい町

1 福井県立大学（海洋生物資源学部）に進学したきっかけは？

幼い頃から海が好きで海洋生物などに興味がありました。高校は水産海洋系の学科に進み、大学ではさらに専門的に海洋について学びたいと考えていたとき、地域とのつながりを大切にしている福井県立大学に魅力を感じ、進学しました。

2 現在どのような勉強（研究）をしていますか、これから取り組みたい研究分野は？

魚類や微生物、藻類、食品化学、海洋環境など海洋生物資源に関わる様々な分野について幅広く学んでいます。私は、特に食品について興味があるので、食料として水産物を持続的に有効利用するための研究をしてみたいと考えています。

3 休日（＋夏季・春季休暇）はどのように過ごしていますか？

休日はバイトをしたり、友人と出かけたりしています。長期休暇は、旅行や趣味など様々なことを行っています。

4 今後（卒業後）の目標を教えてください。

卒業後は県外で就職し、多くの経験を積みながら自分自身の視野を広げていきたいと考えています。そして、将来的には地元に戻り、これまでに得た経験を活かして地元に貢献していきたいと思っています。

5 一言アピール等

今年の白樫祭のテーマは「KAIKYOU」です。このテーマには、新たな幕を開けた白樫祭において、地域に活気をもたらし、人と人の心が響き合うようなつながりを生み出したいという思いが込められています。白樫祭を通して地域の方や地元企業の皆さまと交流を深め、大学と地域とのつながりをより強くしていきたいと考えています。



令和7年
白樫祭開催日
10/4（土）～5（日）

県立大学海洋生物資源学部を卒業後に地域で働く若者を紹介します



福井県栽培漁業センター 育成技術グループ

わたや ともひろ
綿谷 朋紘 さん

生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻
令和4年度卒

出身は越前市です。子供の時から水辺での遊びが好きで、魚や自然に関することを学びたいと思い、県立大学海洋生物資源学部に進学しました。大学では、主にバフンウニの放流場所の適地選定の研究をしていました。

学生時代は、テニス部に所属しており、社会人になっても小浜のクラブチームで楽しんでいます。

現在は、県立大学かつみキャンパスに隣接している福井県栽培漁業センターで働いています。主にトラフグの種苗を生産しており、日々勉強しながら業務に励んでいます。福井県栽培漁業センターでは、マハタ、タイ、ウニ、イワガキなど様々な水産物の種苗を生産していますので、トラフグ以外の種苗生産技術も身につけていきたいです。

これからも地域に貢献出来るようにがんばります！



株式会社 システムラン システム開発部

ふくち たかし
福智 隆史 さん

生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻
令和6年度卒

出身は小浜市です。自然に囲まれた環境で育ち、環境について興味を持つことで、高校から大学まで海洋分野について学んできました。そこで、データの解析を行う際に、プログラムを作成・実行するなかで、プログラムを作成する楽しさに目覚め、IT企業を目指すようになりました。

大学での研究では、近年の若狭湾の水温や海流の流速がどのように変化してきているのかをプログラミングを利用することで大量のデータを解析し、明らかにすることができました。

現在は、株式会社システムランに入社し、プログラミングをはじめとしたITの知識を身に付けながら、日々新しいことに挑戦しています。今後は、商品の開発にも携わる予定であり、会社に貢献できるように、より一層頑張りたいと思います。

小浜市は住みやすく穏やかに暮らせる場所です。若者を中心に全世代の方々に、より小浜の自然や環境に魅力を感じて、定着してもらえるように私も地域に貢献していきたいです。

令和7年度会員募集のお知らせ

「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」は、これまで地域と大学との結びつきを深め、地域に開かれた大学、地域住民に親しまれる大学となるよう、オープンカレッジや白檜祭など各種事業への支援や学生と会員・地域との交流事業など独自のイベントを開催し、積極的に事業を推進しています。

今後とも、育てる会の活動にご協力をお願いします。

主な活動内容(令和6年度の活動実績)

- ★大学と地域の連携強化に向けた取組み
- ★白檜祭への支援
- ★教員、学生と会員、地域との交流
- ★出張キャンパスの実施
- ★学生が取り組む研究内容の発表
- ★学生が体験する定置網漁への支援

年会費：個人会員 3,000 円 団体会員 10,000 円

申込方法：電話もしくは下記までお越してください。

問合せ先：「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」

(小浜市 未来創造課内)

TEL:0770-64-6148(直通)

団体会員

小浜市	おおい町	高浜町
美浜町	若狭町	株式会社 アイビックス若狭支店
ホテル アーバンポート	株式会社 イワタ	株式会社 オーイング
小浜魚商協同組合	小浜海産物 株式会社	小浜市議会
小浜市漁業協同組合	小浜市区長連合会	小浜市校長会
小浜市食品加工協同組合	小浜商工会議所	小浜商店街連盟
小浜信用金庫	小浜製綱 株式会社	桑田テント 株式会社
京福コンサルタント 株式会社	ホテル せくみ屋	有限会社 タカノ
大和交通 株式会社	株式会社 時岡組	農事組合法人 国富
有限会社 平田印刷	株式会社 平田不動産	福井缶詰 株式会社
福井銀行 小浜支店	株式会社 福邦銀行 小浜支店	株式会社 ファニーアート
株式会社 まちづくり小浜「おばま観光局」	株式会社 ママーストアー	三福タクシー 株式会社
矢代観光協会	株式会社 ラボ	れいなん森林組合
(一社)若狭おばま観光協会	福井県立若狭高等学校	若狭河川漁業協同組合
(一社)若狭青年会議所	若狭とびうお会	福井県農業協同組合 小浜支店
若狭湾観光 株式会社		

個人会員

秋道 優太	東 武雄	阿部登記造	石田 一郎	一圓 敏彦	市橋 和廣	伊藤 秀幸
猪嶋 宏記	今井 静雄	岩崎 好信	岩田 拓美	岩田 敏夫	浦谷 俊晴	江上 恒夫
大山 祐子	岡 拓司	岡田 昌樹	岡本 紗季	奥城 直喜	小畑志津子	垣本 正直
片山 守	角野 覚	加門 健二	川嶋 和雄	川代 友広	川代 雅和	川道 明
木崎 秀治	貴志 和之	岸本 洋一	北尾 一成	木村 清美	国島 健一	窪田 光宏
熊谷 久恵	小坂 康之	小寺 光雄	小西 淳二	小林 尚貴	佐藤 善一	澤谷 欣弘
塩野喜一郎	食見 直孝	食見 礼子	重田 洋輔	下仲 隆浩	芝 和繁	嶋田 幸起
清水 淳彦	清水 博敬	下口 浩司	新野 秀志	杉左近孝夫	杉谷 正美	杉本 和範
善定 末雄	高鳥 徹也	高橋 敏恵	高山 智子	竹内 裕喜	田中孝次郎	谷口 竜哉
玉川 正隆	團 留美	檀野 清隆	辻 日出雄	堂前 廣	時岡 拓真	中島 嘉文
仲谷 齊士	中西 武司	中野 春雄	野路 進	能登 恵子	橋本長一朗	畑田 恭央
浜頭 浜江	浜岸 吉満	東野 克拓	東野 洋士	福谷 敏弘	藤田 和弘	古谷 義次
前川 昭彦	松岡 靖洋	松崎 晃治	松原 拓也	松見 一彦	松山 貢	的場 貴志
三原 一太	宮台 俊明	宮本 慎一	村上 利夫	森下 博	森下 裕	山岸 博之
山口 雅巳	山崎 正博	山副喜代美	山本 祐也	湯上 忠明	吉岡隆太郎	吉田 善人
吉田 良三	吉村 明	四方 宏和				

■ 上記の皆さまにご入会いただいております。(令和7年5月現在)

発行：県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会 会長 杉本 和範 事務局：小浜市 未来創造課